

松隠

松隠には、男山にかつて建っていた瀧本坊という寺にあった、閑雲軒（「雲に浮かぶ茶屋」）と呼ばれるユニークな茶室の一小間のレプリカが含まれています。元々の閑雲軒は、山腹に立てられた木製の支柱上に建っていたため、まるで空中に浮かんでいるかのように見えました。閑雲軒の小間と書院からは、八幡とその向こうにある京都のパノラマの景色を眺めることができました。

著名な茶人であり、作庭家でもあった大名の小堀遠州（1579～1647）が、瀧本坊の当時の住職であった友人の松花堂昭乗（1584～1639）のために閑雲軒を設計したと言われています。閑雲軒は 1773 年に焼失しましたが、歴史ある設計図を元に復原されました。